

## 凝固検査の測定機器・試薬変更のお知らせ

このたび、院内にて実施している凝固検査について検査機器・試薬の変更をいたします。

診療科のみなさまにはご理解のほど、よろしくお願い致します。

**2022年 1月 1日 (土) 受託分より**

- 変更となる検査項目 : PT・APTT・Fbg・AT・DD
- 備考 : オーダー方法に変更はありません。

検査項目	変更内容	新	旧
全項目	検査機器	STACIA CN-10	コアプレスタ2000
PT	検査方法	凝固時間法	同左
	基準範囲	PT活性 : 80 - 100% INR : (設定なし)	PT活性 : 70 - 120% INR : 0.8 - 1.2
APTT	検査方法	凝固時間法	同左
	基準範囲	24.0 - 39.0 秒	同左
Fbg	検査方法	トロンビン時間法	同左
	基準範囲	200 - 400 mg/dL	同左
AT	検査方法	合成基質法 (IIa法)	合成基質法 (Xa法)
	基準範囲	83.0 - 118.0%	80 - 130%
DD	検査方法	ラテックス凝集法 (LA)	同左
	基準範囲	1.00 µg/mL 未満	1.0 µg/mL 未満

PTの測定は、測定試薬などの差により施設間差があることが問題です。この施設間差を解決するために試薬ごとに設定された国際感度指数 (international sensitivity index: ISI)を用いたPT-INR (international normalized ratio)での表示が推奨されていますが、これはワルファリン療法のコントロールに用いるものです。

PTは肝の蛋白合成能を評価する指標でもありますが、肝疾患におけるPT測定ではPT-INRを用いても試薬間差は是正されないため、肝硬変の重症度分類 (Child-Pugh分類) などの臨床上の肝障害評価にはPT活性が用いられています。



凝固検査の測定機器・試薬変更のお知らせ

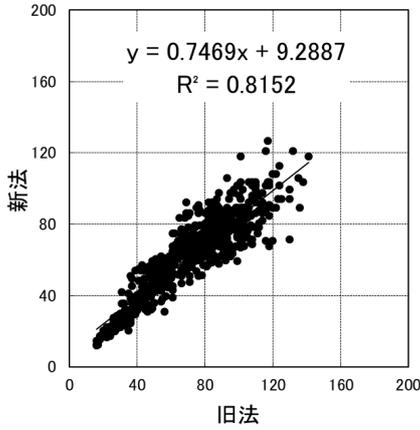
21-P046 (2021 Dec.)

[1/3]

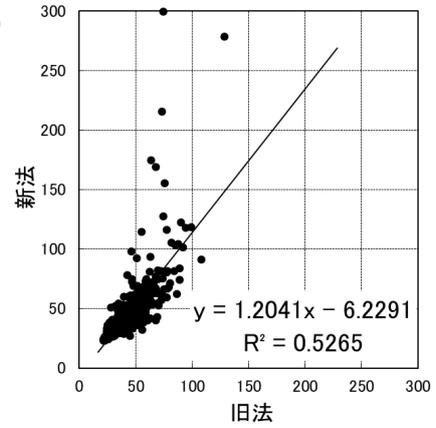
サポートライン  
2147

● 各検査項目の相関

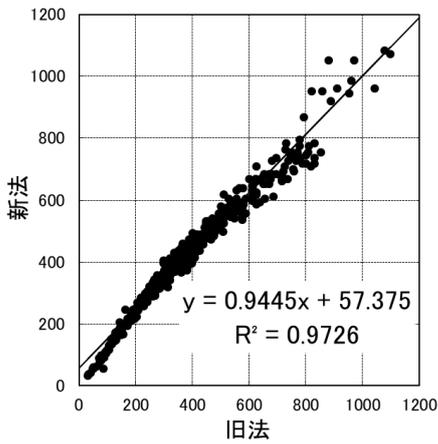
PT



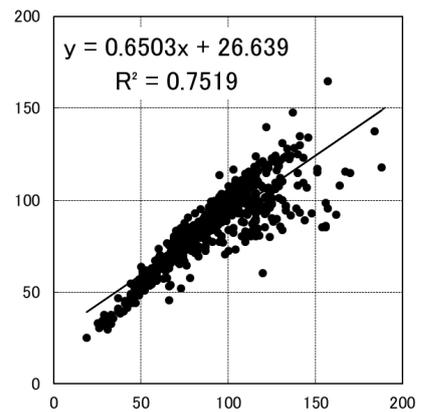
APTT



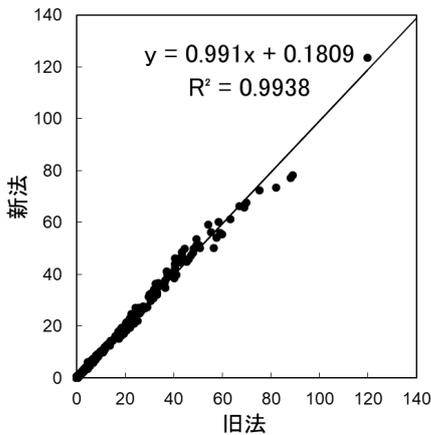
Fbg



AT



DD



検査部サポートライン (PHS : 2147)

検査部 : 中西 (PHS : 6204) ・ 増田 (PHS : 2144) ・ 西山 (PHS : 2141)

